



フランス近代哲学・科学哲学

[キーワード: 経験論 実証主義 エピステモロジー]

准教授 山口裕之

<研究の概要>

フランス近代経験論哲学を研究の出発点として研究を進めてきた。フランス近代(17~18世紀)は、実験的な方法による自然科学や、民主主義の思想など、現代の基本的な枠組みが形成された時期である。当時、「哲学」と呼ばれたものの中には、現代の自然科学や社会科学がそっくりそのまま含まれている。現代の諸科学は、すべて哲学から派生したのである。フランス近代哲学を出発点とすることで、現代社会の基本的枠組みの構造を、その成立の時期において理解することができる。そうした観点から、これまでは主に自然科学の成立構造を、エピステモロジー的に研究してきた。

エピステモロジーとは、カンギレムやフーコーに代表される、フランス科学思想やその方法論を指す。英米系の科学哲学が主に数理物理学を念頭に置いて議論を展開するのに対して、フランス・エピステモロジーでは医学、生物学など、数学的方法論に還元しきれないような科学分野にむしろ重点を置いて展開されてきた。そうした観点から、『人間科学の哲学』、『認知哲学』などの著作では、心理学や言語学などを取り上げて論じた。『ひとは生命をどのように理解してきたか』は、生物学についてのエピステモロジー的研究である。

最近では、社会科学的思想の系統に重点を置いて研究を進めており、『人をつなぐ対話の技術』ではホブズ、ロック、ルソーらの社会契約論を取り上げ、民主主義とは何か、倫理とは何かという点について検討した。『「大学改革」という病』では、大学という制度の歴史を科学思想や社会思想と絡めながら検討し、今後の大学の在り方や、転換点を迎えている日本社会全体のあるべき姿を提唱した。

今後も、哲学的観点から現代的課題を検討していきたい。

<主要研究業績>

- ・山口裕之(2002年)『コンディヤックの思想』勁草書房
- ・山口裕之(2005年)『人間科学の哲学』勁草書房
- ・山口裕之(2009年)『認知哲学』新曜社
- ・山口裕之(2011年)『ひとは生命をどのように理解してきたか』講談社
- ・山口裕之(2013年)『コピペと言われないレポートの書き方教室』新曜社
- ・山口裕之(2016年)『人をつなぐ対話の技術』日本実業出版社
- ・山口裕之(2017年)『「大学改革」という病』明石書店

専門分野 : フランス近代哲学・科学哲学

E-mail: yamaguti@tokushima-u.ac.jp

Tel : 088-656-7615

詳細情報 : <http://pub2.db.tokushima-u.ac.jp/ERD/person/74997/profile-ja.html>